

文化学園 服飾博物館

だより

BUNKA GAKUEN
COSTUME MUSEUM NEWS

- 染織資料をひも解く手がかり 1
- 2018年度の活動報告 2
- 特 集 3
- 2019年度 展示のご案内 4

vol. 32

32

染織資料をひも解く手がかり

私たちが現在着る既製服には、製造元や品質などを示す表示ラベルが付いています。服飾博物館の所蔵資料にも、ドレスや染織品にラベルがついていることがあります。これらの表示は、それがどこで作られたものか、いつ頃作られたものなのかを知る手がかりとなります。また表示ラベルばかりではなく、布に直接捺印されたスタンプ、旧蔵者が整理のためにつけた貼り札などは、その衣服や染織品がどのような経緯を経たものかを裏付けることもあります。

服飾博物館の所蔵品の中から表示ラベルやスタンプなどのある服飾資料をご紹介します。そこから何をひも解くことができるのでしょうか…。



ボディス 日本 明治20年頃
ウエストベルトには「W.O.Shirokiya TOKIO」の文字と鈎を交差したような白木屋の「釜印」が刻印されています。白木屋(現在の東急百貨店の前身)は明治18年頃から洋服も手掛けるようになりました。



女児服(部分)
フランス 1890年頃
襟にはパリの百貨店「ポン・マルシェ」のタグがつきます。



スカーフ(部分)
ロシア 19世紀後半
端に「バラノフ兄弟工房」とプリントされ、ウラジミル県カラバノボ村で作られたものと分かります。



頭布(部分)
シリア 20世紀後半
巻の中に「サバール・ムハンマド・ハラブ」と織り込まれ、アレッポ(=ハラブ)の工房で作られたものと分かります。

流通が分かる VOC (オランダ東インド会社) のスタンプ

インドネシア・スマラウェシ島のトラジャ族に伝わったインド更紗の反物。裏面布端には、丸にVOC (Vereenigde Oost-Indische Compagnie) の印が押され、18世紀前半にオランダ東インド会社が扱った貿易品であるとことが分かります。オランダ東インド会社は1602年に設立され、1799年までの間、アジアの広い地域に貿易独占権を持ちました。



製造元と販売元が分かる 水着のタグ

ジャンセン (Jantzen) は1910年に設立したアメリカのニット製造会社で、水着も手掛けました。トレードマークであるダイビング姿の女性のイラストは年代によって少しずつ異なり、本資料は1930年代のものと分かります。タグには東京の百貨店の名が捺印されているため、昭和初期にアメリカ製の水着を輸入し、日本の百貨店で販売していたことが分かります。



戦時中の社会状況が分かる 国家による製品規格のタグ

このイギリス製のドレスには、「CC41」(Controlled Commodity: 規制商品)のマークがつきます。このマークは、イギリス政府が1941年に簡素かつ丈夫な商品の規格を設け、この規格をクリアした商品につけられたものです。戦中の物資不足による買い占めや、売り借しによる価格の暴騰や混乱を防ぐ目的がありました。



日本では昭和14年に「価格等統制令」が公布され、価格の暴騰を防ぐために公定価格制が実施されました。公布の翌年からは製品に表示が義務づけられ、○に公の「マル公」として示されました。右は半衿の端に付いた表示です。小売価格と衣料切符点数が併記されており、衣料も食料と同様に切符による配給制となった昭和17年以降のものと分かります。



服飾博物館には「被服協会」と書いた貼り札のついた資料がいくつかあります。被服協会は昭和4年に設立された陸軍被服廠(軍服類を調達、補給するための国家機関)の外殻団体で、被服資源の研究や民間への教育などを目的としていました。被服協会では、東アジア、東南アジアの一般市民の平常服の現地収集を行い、民族衣装の素材、形状などを調査・研究していました。この貼り札は収集品の整理をする際につけたものと考えられ、政策の一環として諸民族の習俗を知ろうとしていたことがうかがえます。



旧蔵者が分かる 貼り札

2018年度の展覧会

【ヨーロピアン・モード】 3月11日→5月16日

服飾博物館では、例年新入生を迎えるこの時期に、モードの歴史をたどる展示を開催しています。本展では、18世紀ロココ時代から20世紀末まで、ヨーロッパを発信元とする約250年の女性モードに焦点をあて、その流行と変遷を、社会構造の変化や産業の発達といった背景とともに紹介しました。また特集として越路吹雪のドレスを取り上げました。リサイタルやディナーショーで着用した衣装はオート・クチュールで仕立てられたもので、当館が所蔵する20点余りのステージ衣装のすべてを約30年ぶりに出品しました。



【ブルックス ブラザーズ展 -アメリカンスタイルの200年、革新の2世紀-】 10月5日→11月30日

アメリカの紳士服ブランドであるブルックス ブラザーズの創立200周年を記念した回顧展を、株式会社ブルックス ブラザーズ ジャパンとの共催で行いました。この展覧会は、フィレンツェのヴェッキオ宮殿、ニューヨークのグランド・セントラル駅での開催に続き、日本では服飾博物館が会場となりました。展示ではブルックス ブラザーズの所蔵するアーカイブの中から、ブランドを象徴するアイテムや映画衣装などを紹介しました。また、日本展のみの企画として、小村寿太郎(1905年のポーツマス条約締結時の外務大臣)のフロックコートとベストを展示しました。アメリカのひとつのブランドの歴史ではなく、アメリカのファッションそのものの歴史を感じさせる展覧会となりました。



【華やぐ着物 -大正、昭和の文様表現-】 12月20日→'19年2月16日

大正時代から昭和初期の友禅染や銘仙などの華やかな文様の着物を展示しました。当時の着物の文様は、日本の伝統的なモチーフを洋画風に表現したり、洋花を大胆かつ鮮やかに表したりと、モダンな雰囲気を感じさせます。また、当時、絶大な人気を誇った銘仙の大膽な文様と斬新な色使いは、現代の我々の目にも新鮮に映ります。来館者からは、「祖母や母の時代の着物を見られて懐かしく感じた」という感想が寄せられた一方で、学生を中心とした若い世代からは「大正、昭和初期の着物がこんなに華やかだったとは知らなかった」との感想も聞かれ、世代によって鑑賞の仕方も様々だったようです。着物姿の来館者も多く、展示室内の雰囲気がより一層華やいだ展覧会になりました。



展示室の空調工事を実施しました。

2018年5月から9月までの約4か月間、展示室の空調工事を行いました。服飾博物館が現在のクイントビルに移転してから15年が経ち、ビルを取り巻く設備や技術が改良される中で、状況の変化にあわせた大規模な工事となりました。今後、より安定した温湿度の環境を作るとともに、節電にも役立ちます。

所蔵品データベースをリニューアルしました。

ホームページ上で資料検索ができる所蔵品データベースをリニューアルしました。さまざまな地域や時代から約600点を選んで公開するとともに、検索画面もビジュアルで分かりやすくなりました。それぞれの資料画像は、全体のカットから布地のディテールまで、1点につき4~6カットを公開しています。是非ご活用下さい。



「アール・デコ・リヴァイヴァル！」展に協力しました。

3月21日から6月12日まで東京都庭園美術館で開催された「アール・デコ・リヴァイヴァル！ 建物公開 旧朝香宮邸物語」展では、建物の歴史に合わせて1920年代の調度や衣装を展示し、当館からは衣装類8点、バッグや靴などの小物類11点を出品しました。



朝香宮鳩彦王の燕尾服と允子妃のドレス
写真：東京都庭園美術館提供

「明治150年記念 華ひらく皇室文化」展に協力しました。

4月17日から5月27日まで名古屋の徳川美術館で「華ひらく皇室文化 -明治宮廷を彩る技と美-」展が開催され、当館からは昭憲皇太后着用の中礼服を出品しました。華やかなピンク色のドレスは、ポスター、チラシのメイン・ビジュアルとなり、展示の中でも主要な資料として来館者を惹きつけていました。



博物館考

文化学園服飾博物館 副館長 佐藤正明

博物館の役割と使命

昨今、博物館と接することは珍しいことではなくなりました。博物館は日常の中に存在し、私たちに知識と刺激を与えてくれる存在となっています。平成20年、中央教育審議会から「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」という答申が出され、今では当たり前のように使われる「生涯学習」ということばが明文化されました。世界中に存在する全ての博物館はその一角を担っているといえます。日本の博物館の歴史は、1872年（明治5年）東京の湯島聖堂博覧会（文部省博物局主催）に始まり、それが後の東京国立博物館となりました。博物館は時代と共に成長・発展しその形の変化を経て、今日のような博物館となりました。そして今日における博物館の役割を明確に語ってきた人がいます。それは、文化人類学者で、国立民族学博物館（大阪府吹田市千里）の初代館長を務めた「梅棹忠夫」氏で、1984年に、開館10周年を記念した講演において、「博物館は未来を目指す」というタイトルで次のように述べています。博物館は、文明の過去の保管場所ではなく、文明の過去を整理し、新しい観点から新しい文脈に組みなおし、現在を再編成して、未来に送り出すという時代を超えた文明の伝達装置であり、博物館において時間は静止し、過去も、現在も、未来もここでは同時的存在であると言葉にしています。戦後、昭和26年に新しく制定された博物館法は、教育普及とともに文化の発展に寄与することを目的とし、その法は次のような経緯で成立しました。

博物館法の成立と法の趣旨

戦後、昭和26年制定の博物館法の基となったのは、昭和24年に成立した

社会教育法、その基となったのは、昭和22年に成立した教育基本法、そしてその大基となったのは、日本国憲法（昭和21年公布）なのです。このような経過で成立した「博物館法」は、次のように定められています。

（抜粋）

目的 1条 国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

定義 2条

1) 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料の収集、保管をすること。

2) 展示を中心として、公衆の調査研究、レクレーションなどに資する教育普及をすること。

3) 調査研究をすること。

博物館における日常の主な業務については前記に示されている通り、資料の収集、保管、展示・教育、研究であり、このことにより、国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的としています。つまり博物館は社会教育施設の一つということになります。

スコの公式協力機関で、有形・無形の自然遺産・文化遺産の保存と維持、展示などを行なうミュージアム（博物館、美術館、動物園、植物園、水族館）などの振興を目的とし、世界141の国と地域からの参加で運営される国際的な組織で、今年は25回大会が9月に京都で開催され、世界の博物館や地域と社会、過去と未来、文化をつなぐさまざまな意見が交わされ、そこでの成果は博物館の未来に反映されています。

人の営み、歴史、伝統・文化を未来につなげていく博物館、常に発展・進化を続けている博物館に足を運んでみませんか。

* 文化学園服飾博物館は、日本博物館協会の会員です。



『整理と保存』 昭和35年頃
文部省史料館で使われていた資料の整理方法のマニュアル。

世界の博物館が目指すもの

今日、博物館は全世界に存在していますが、その博物館の国際的な組織として、ICOM（国際博物館会議）があります。

ICOMは1946年に創設されたユネ

Web版「博物館だより」では、カラーでご覧いただけます。

2019年度 展示のご案内 ■ Exhibition Schedule

3月11日(月)～5月17日(金) * 4/28～5/6は休館
ヨーロピアン・モード

宮廷が流行を生み出した18世紀のロココ時代から、産業の発達や社会の成熟とともに変化する19世紀を経て、若者や大衆が流行の担い手となった20世紀末まで、ヨーロッパを発信元とする約250年の女性モードの変遷を、その社会背景とともに紹介します。また特集として、20世紀のモードにみる「日本」を取り上げます。19世紀半ば以降のジャポニズムのブーム、1960-70年代のフォークロア・ブームなどは、着物の要素を取り入れたドレスを生み出しました。単なる模倣にとどまらず、新たな創造へと躍進したドレスを展示します。



【特別出品】
大阪万博の制服
1970年

ドレス：クイラク
ウズベキスタン
20世紀初め



装飾用布（部分）
マダガスカル 20世紀



布団地
福岡 久留米
明治時代後期



サリー：バトラ（部分）
インド 19世紀末-20世紀初め



ティ・ドレス
フランス 1860年頃

6月14日(金)～9月10日(火)

世界の紺

* 8/4, 8/25は開館

* 夏期休館 = 8/9～8/18

* 6/21, 7/12は19:00まで開館

紺は古くから世界各地で行われてきた染織技法の一つです。あらかじめ織り糸を染め分けた後に織りあげるもので、経糸に染めを施す経紺、緯糸に施す緯紺、経糸と緯糸に染めを施す複合紺があります。紺には素朴な幾何学文様から複雑で精緻な絵画文様までさまざまな表現が見られ、境目がかかる文様からは柔らかさや獨特な表情が感じられます。本展では、日本、アジア、ヨーロッパ、アフリカなど約20か国の多様な紺を紹介し、紺という一つの染織技法に注目することで浮かび上がる、それぞれの地域の特色を探ります。

10月7日(月)～11月29日(金)

能装束と歌舞伎衣裳

ユネスコの世界無形文化遺産として認定されている「能楽」と「歌舞伎」、その舞台衣裳には、共に優れた意匠や染織技術が認められます。能楽は、室町時代初めに、親阿弥・世阿弥親子により始められ、江戸時代に武家の式楽（儀式に用いる樂）とされ、今日に伝えられています。歌舞伎は、江戸幕府の開設と時期を同じくして誕生し、庶民の支持を受けながら今日まで引き継がれ、人々に親しまれています。本展では、当館の所蔵する彦根藩主・井伊家旧蔵の江戸後期から明治時代の能装束と、松竹衣裳株式会社の所蔵する現代の歌舞伎衣裳を紹介し、日本を代表する芸能である両者の衣装の特色や共通性などに迫ります。



能装束（袴代被）
江戸時代後期 井伊家旧蔵



能装束（唐襷）
江戸時代後期 井伊家旧蔵



武蔵坊弁慶（勘定帳）*



山陰右京（身替座禅）*

* 松竹衣裳株式会社所蔵



女性用衣装
チェコ 1970年



肩衣
江戸時代後期



ドレス
1910-20年代
イタリア
フォルチュニイ

サリー
インド
1970-80年代

12月20日(金)～2020年2月14日(金)

ひだ -機能性とエレガンス-

衣服のひだには、ブリーツ、ギャザー、シャーリング、タック、ドレープ、フリルなど、多くの表現があります。これらのひだには、布を体のラインにフィットさせるため、動きやすくするため、気候風土に適応するため、といった機能性の追求の他、装飾性を与えたり、布の流れを強調して体のラインを美しく見せる、といったフォルムの追求のために用いることもあります。本展では、世界各地の民族衣装やヨーロッパのドレスなど、ひだが作り出す機能性とエレガンスに焦点を当てます。

* 上記の予定は都合により変更されることがあります。

利用案内

- ◆ 開館時間 10:00～16:30
(各展示会期中2回、19:00まで開館 入館は閉館の30分前まで)
- ◆ 休館日 日曜日、祝日、夏期・年末年始、展示替の期間
- ◆ 入館料 一般 500円・大高生 300円・小中生 200円
*20名以上の団体は100円引、障がい者とその付添者1名は無料
- ◆ 交通 JR/京王線/小田急線 新宿駅(南口)より徒歩7分
都営地下鉄 新宿線/大江戸線 新宿駅(新都心口)より徒歩4分



文化学園服飾博物館

〒151-8529 東京都渋谷区代々木3-22-7

TEL. 03-3299-2387

<https://museum.bunka.ac.jp>

学校法人 文化学園

文化学園大学/文化ファッション学院/文化服装学院/文化外語専門学校/文化出版局/文化服飾博物館